

校訓	盡己	令和7年度学校通信 「松中だより」 第25号	発行日	令和8年2月24日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 ～地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

【ミラノ・コルティナオリンピック】

23日に閉幕したミラノ・コルティナオリンピックは各国選手の素晴らしいパフォーマンスが続き、毎日ワクワクドキドキしてテレビに見入っていました。特にフィギュアペアフリーと女子フリーの行われた朝は、通勤の車内でテレビの音声にかじりついていました。

このオリンピックで現役引退を表明しているフィギュア女子の坂本花織選手は銀メダルが確定した後のインタビューで次のように述べています。

「前は奇跡的に取れた銅メダルだった。そこから4年がたって、いい色のメダルを掛けているはずなのに悔しいと思えるのは頑張ってきたから。自分を褒めてあげたい。」

悔しい思いもありながらも、そう思っている自分を受け入れ、いままで頑張ってきた自分をほめてあげたいと言っています。ライバルの演技やメダルの色や国の違いなど「他者との比較」ではなく、「昨日の（過去の）自分との比較」で自身の成長や存在を実感しているのだなと思いました。そういえばりくりゅうペアも前日の失敗を乗り越え、素晴らしい演技につながりました。

よく、自己肯定感・自尊感情の大切さやその低さが話題になることがありますが、単に「他者との比較」だけでは一時的にこれらが向上することはあっても、根本的な向上にはつながらないと言われています。それどころかむしろ自己肯定感や自尊感情を低下させるリスクの方が大きいそうです。

過去の自分と今の自分を比較し、成長を自覚することや、よいこともそうでないことも含めて、ありのままの自分を認め、受け入れていくことが大事なようです。

記録や技術、演技の素晴らしさはもちろんですが、そこに至るまでの選手やそれを支える人たちの努力や苦勞、もっと言えば一人ひとりの人間の生き様が多くの感動を与えてくれたオリンピックでした。ありがとうございました。



【今年度最後の土曜学習会】

2月21日（土）、本年度の最後の土曜学習会でした。

今年度は毎回参加者が多く、この日も30人近い生徒が参加し、指導ボランティアもコーディネーターの谷野さんをはじめ、大学生1名、社会人3名、その他に先生方も飛び入り参加で2名が指導にあたってくださいました。

2週間前には土曜学習会の際に地域の方をお願いして、私立、公立の推薦、特色、多部制2月入試を受験（受検）する3年生で、希望する生徒を対象に模擬面接を行っていただきました。20人ほどの生徒が模擬面接に参加し、初対面の大人を相手に面接練習を重ねました。

2月26日（木）27日（金）は1，2年生の学年末テスト、3月12日（木）には公立学力検査、多部制3月入試があります。いずれの試験もしっかり準備することが大切です。一人では気分の乗らない人、家では勉強しづらい人、様々な誘惑に負けてしまいそうな人は、自分から自分の学習環境を選ぶことも大切です。次年度以降も土曜学習は続くと思います。いろんな機会を利用し、環境を含めて、自分の学習方法を見つけてください。



【部活動地域展開 登録地域クラブ体験会】

ご存じの通り、令和8年度の3年生の引退をもって、中学校の部活動は終了し、地域の登録クラブ、届出クラブに移行されます。2月22日（日）には現在の中学校1年生、小学校6年生を対象に登録地域クラブの体験会が実施されました。松崎中学校でも午前中は卓球とバスケットボール、午後はソフトテニスが体験会を実施しました。卓球とバスケットボールは小、中あわせてそれぞれ10人弱、テニスは20人ほどの児童生徒が参加していました。松中生だけでなく昆陽小の児童や他中の生徒なども多く参加しており、部活動はこんな風になるんだなと思いました。

次回の松崎中学校での体験会は3月22日（日）に予定されています。体験会の日程、会場は市のHPにアップされています。申込の上、参加してください。

体験会はこちらから → → →

